

環境パフォーマンスの改善

廃棄物削減のために

富士フィルム国内6事業所でゼロエミッションを達成

循環型社会への実現のために、富士フィルムは「事業活動で発生するすべての廃棄物を100%再資源化し、廃棄物の焼却・埋立をともにゼロにする」すなわち産業廃棄物のみならず、一般廃棄物、食堂の生ゴミなど廃棄物の全てを再資源化すると

いう目標を掲げ、「ゼロエミッション推進委員会」を中心に対策を推進してきました。その結果、2002年3月にすべての国内の工場・研究所で、目標達成時期を1年繰り上げてゼロエミッションを実現しました。主なリサイクル方法は以下の通りです。

廃棄物	リサイクル方法	廃棄物	リサイクル方法
プラスチック(分別品)	パレット、配管、衣服、断熱材等	酸・アルカリ	中和剤
プラスチック(混合品)	高炉原料	可燃性廃棄物の混合品	固形燃料、発電・温水製造
磁気テープ	高炉原料	蛍光灯	ガラスウール、水銀
フィルター	高炉原料	電池	亜鉛、鉄精錬
水酸化アルミ	アルミナ	残飯、生ごみ・有機汚泥	肥料、飼料
無機汚泥・研磨剤	セメント、路盤材、建築用資材	書類、空箱	再生紙
有機溶剤	塗料用シンナー	鉄、アルミ、銅等、金属類	金属精錬

各事業所のゼロエミッションの実績

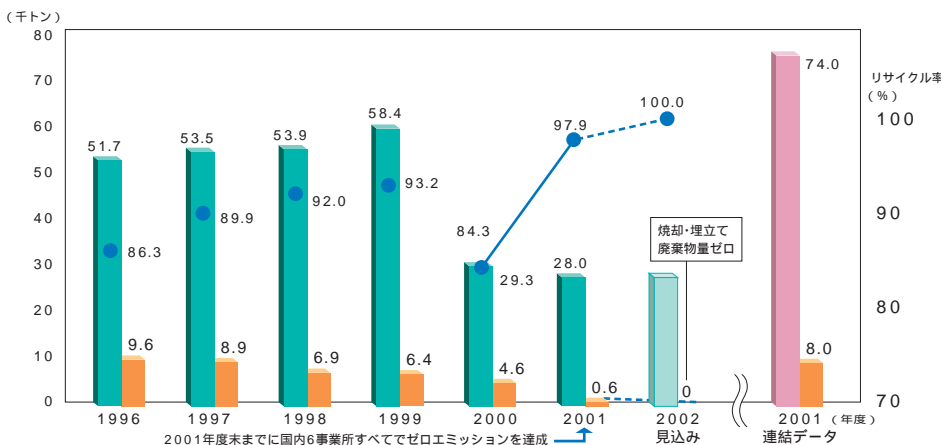
事業所	生産用原材料から発生する廃棄物すべての再資源化	すべての廃棄物の再資源化
吉田南工場	2000年9月	2001年3月
富士宮工場	2000年9月	2001年12月
宮台技術開発センター	2000年9月	2002年1月
小田原工場	2001年9月	2002年3月
朝霞技術開発センター	2001年3月	2001年3月
足柄工場	2002年3月	2002年3月

* 富士フィルムでは安全性を最優先に考えており、一部の研究用廃試薬および感染性廃棄物に限り、ゼロエミッションの対象外としています。

* ゼロエミッションを達成する体制が整った年月を記載しています。

富士フィルムは今後もゼロエミッションを推進し、2002年度末までに営業所を含む国内の全事業所で、また2003年度末までには国内全グループ会社でゼロエミッションを達成する予定です。

廃棄物発生量と焼却・埋立廃棄物量の推移（富士フィルム国内6事業所のデータ）



* 1999年度以前は有価物も廃棄物の対象に含めていましたが、2000年度のデータからは、社外に排出する無価値のみを廃棄物として集計しています。